2024年卒就職活動の振り返り（学生）

学生の進路決定状況や、活動プロセスごとの行動量、活動時期は？

第1志望群に入社する学生が64%

ここからは、2024年卒学生の就職活動を振り返る。

民間企業等を対象に就職活動を行った学生のうち、2023年11月時点で民間・民間以外を問わず就職先が確定している学生は89.4%（グラフ❶）。「民間企業に就職する」ことが確定した学生は83.7%であった。いずれも、2022年卒からの3カ年で増加傾向にある。

1社以上内定を取得した学生の平均取得社数は2.61社で、前年（2.52社）から微増した（データ❸）。2社以上の内定を取得した学生の割合は64.7%であった（表❹）

就職先が確定している学生のうち、「当初からの第1志望群」に入社予定の学生は64.0%で、前年（61.5%）から2.5ポイント増加（グラフ❷）。前年に続き、聴取を開始した2015年卒以降の最高値を更新した。

入社予定の企業に就職することへの納得度については、納得していることに「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」の合計が77.2%で、前年（72.4%）から4.8ポイント増加（グラフ❺）。一方で、「当てはまらない」「どちらかというと当てはまらない」の合計は6.2%で、前年（5.8%）から微増。2022年卒から継続して微増傾向にある。

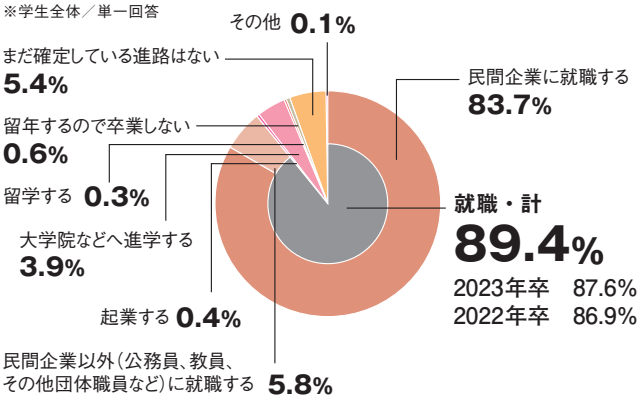
応募に関する活動量が減少

学生の就職活動の各プロセスの平均実施数を見ると、「プレエントリーをする」が28.12社（前年卒差－2.86社）、「エントリーシートなどの書類を提出する」が12.71社（同－3.31社）と、採用選考の応募に関する活動量が減少した（表❻）。近年、学生・企業ともに卒業年次前年の冬以前にインターンシップ等で相互に接点を持ち、その上での応募・選考実施を重視する傾向にあることから、学生はインターンシップ等に参加して業界・企業研究を進め、応募企業をある程度絞って応募している可能性がある（インターンシッ

学生 約9割が就職先を確定

❶ 卒業後の進路確定状況（2023年11月時点）

※学生全体／単一回答



学生 平均2.61社から内定を取得。2社以上内定を取得した学生は64.7%

❸ 内定を取得した企業数（平均）

※内定取得者／数値回答

2024年卒 **2.61社**

2023年卒 2.52社
2022年卒 2.46社

❹ 内定を取得した社数の割合

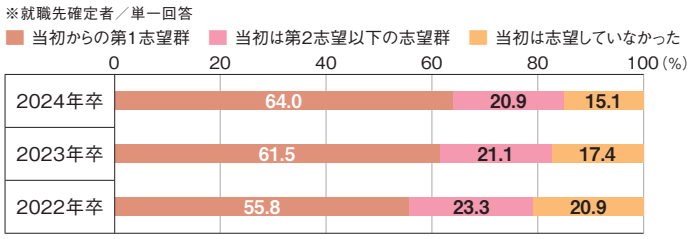
※内定取得者／数値回答

	n	1社	2社	3社	4社	5社	6社以上	2社以上・計
2024年卒	1,584	35.3%	24.2%	19.2%	7.5%	7.5%	6.3%	64.7%

学生 64%が当初の第1志望群に入社予定

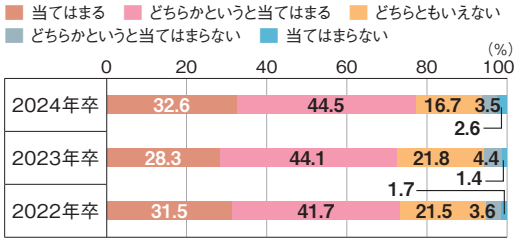
❷ 入社予定企業等への就職活動開始当初の志望度

※就職先確定者／単一回答



学生 77.2%が入社予定企業等への就職に納得

❺ 入社予定企業等に就職することへの納得度 ※就職先確定者／単一回答



	当てはまる・計	当てはまらない・計
2024年卒	77.2%	6.2%
2023年卒	72.4%	5.8%
2022年卒	73.2%	5.2%

プ等と就職・採用活動との関係については、P14以降で述べる)。

また、応募に関する活動量は減少したものの内定取得社数が前年と同水準であることから、学生は必要以上に多数の企業に応募せずとも内定を取得できる状況にあり、効率的に就職活動を行っていることもうかがえる。

各プロセスの実施率は、「合同説明会・セミナー(対面)に参加する」(同+3.4ポイント)、「対面での面接選考を受ける」(同+1.3ポイント)など6項目で増加したが、他8項目は横ばいないし減少した。「合同説明会・セミナー(対面)に参加する」「対面での面接選考を受ける」は平均実施数も微増しており(それぞれ、同+0.20回、同+0.12社)、対面での活動機会が微増傾向にあることがうかがえる。他方で、Webでの説明会・選考の平均実施数は、「個別企業・各種団体等の説明会・セミナー」(同−2.47社)、「面接選考」(同−1.31社)で減少した。

希望の働き方を整理し、合致する企業に内定

● Wさん・専門商社内定・理系学部4年

就職活動を始めたのは3年生の8月からです。まずはいろんな業界について知って自分との共通点や向き・不向きを確認したいと思い、オンラインの合同企業説明会や約30社の1day仕事体験などに参加。食品や薬品、機械、化粧品などのメーカーや観光業界などについて情報収集しました。

その中で出合ったのが、ヘアサロンにヘアケア商品などを販売する営業職の仕事です。髪型や髪の色を変えるのは自分の趣味で、人と話すことも好きだったので、好きなことに仕事で関わることができれば仕事でマイナスに感じることも少し減るだろうし、生活していく上でもポジティブでいられるのではないかと思い、美容用品を扱う商社やメーカーの営業職を中心に応募していくことにしました。加えて重視したのは、一方的に指示されるのではなく自分の意見も受け止めてもらえる環境があることと、今暮らしている関東圏で働けることです。内定先は、この3条件に合致していている企業です。「配属は希望の地域にする」と選考時に言われたことも決め手になりました。

学生 「プレエントリー」「書類提出」の平均実施数が減少

❻ 就職活動プロセスごとの実施状況

※実施率:学生全体/複数回答、平均実施数の対象:各プロセスを実施した学生/数値回答
※( )内の数値は2024年卒と2023年卒との差(ポイント)

		実施率(%)		平均数(実施者ベース)				
	2024年卒/2023年卒	n=1,802	n=1,618	①2024年卒		②2023年卒		①−②
就職に関する情報を収集する		76.2	(−1.6)					
OB・OGなど社会人の先輩を訪問する		15.2	(−0.3)	n=273	2.84 社	n=248	3.17 社	−0.33 社
					4.74 人		4.14 人	0.60 人
リクルーターと接触する		17.6	(−0.4)	n=315	2.69 社	n=290	2.73 社	−0.04 社
				n=314	3.21 人		3.20 人	0.01 人
プレエントリー(企業・各種団体等への個人情報提供)をする		39.4	(0.2)	n=700	28.12 社	n=628	30.98 社	−2.86 社
合同説明会・セミナー	対面で開催されるものに参加する	33.9	(3.4)	n=609	4.18 回	n=492	3.98 回	0.20 回
	Webで開催されるものに参加する	57.5	(−1.5)	n=1,033	7.40 回	n=949	8.00 回	−0.60 回
個別企業・各種団体等の説明会・セミナー	対面(社内、会場など)で開催されるものに参加する	36.1	(−0.8)	n=647	5.27 社	n=595	5.37 社	−0.10 社
	Webで開催されるものに参加する	39.7	(−1.2)	n=709	12.28 社	n=661	14.75 社	−2.47 社
エントリーシートなどの書類を提出する		60.8	(0.1)	n=1,086	12.71 社	n=975	16.02 社	−3.31 社
選考のための動画を提出する		25.4	(−0.0)	n=451	3.56 社	n=409	4.10 社	−0.54 社
適性検査・筆記試験を受ける		59.7	(0.7)	n=1,070	8.81 社	n=952	10.39 社	−1.58 社
面接選考	対面での面接選考を受ける	55.2	(1.3)	n=991	4.76 社	n=870	4.64 社	0.12 社
	Web上での面接選考を受ける	53.3	(−0.6)	n=958	7.78 社	n=870	9.09 社	−1.31 社
内々定・内定を取得する		87.9	(1.3)	n=1,584	2.61 社	n=1,401	2.52 社	0.09 社

2024年卒就職活動の振り返り（学生）

半数超が卒業年次前年9月までに活動を開始

次に、活動時期・期間について見る。就職活動を終了した学生に就職活動の開始時期を聞いたところ、「卒業年次前年9月まで」が56.9％と半数を超えていた（表❶）。2023年卒（59.7％）に比べると2.8ポイント減少したが、コロナ禍直前の2020年卒（30.3％）、「卒業年次前年3月1日より広報活動開始、卒業年次6月1日より採用活動開始」という現行スケジュールの初年度であった2017年卒（10.8％）に比べると大幅に増加している。

なお、企業の広報活動開始時期より早い「卒業年次前年2月まで」は80.8％で、これも、2020年卒（65.8％）、2017年卒（46.0％）に比べて大きく増加している。

内定取得経験のある学生が最初に内定を取得した時期は、「卒業年次前年3月」が14.4％で最も高く、次いで「卒業年次4月」（13.1％）であった（表❷）。また、「卒業年次前年2月まで」は31.4％、「卒業年次5月まで」は70.4％であった。

就職先が確定した学生に入社予定先からの内定取得時期を聞いたところ、「卒業年次6月」が18.7％で最も高く、前年（18.3％）と同水準であった（表❸）。6月に内定出しをする大手企業などの結果を待って入社企業を決定する学生が一定数いたことがうかがえる。他方で、「卒業年次前年2月まで」は15.2％で、前年（13.7％）に比べて1.5ポイント増加、「卒業年次5月まで」は52.7％で、前年（49.2％）から3.5ポイント増加しており、全体的に入社予定企業からの内定取得時期が早期化傾向にあることが分かる。

なお、2024年卒の学生の実質就職活動期間の平均は7.87カ月で、前年（8.36カ月）から半月程度短期化し、2021年卒（7.80カ月）並みであった（データ❹）。

約7割が最初の内定取得後も活動を継続

内定取得者のうち、最初の内定取得後に就職活動を継続

学生 56.9%が、卒業年次前年9月以前に就職活動を開始

❶ 就職活動の開始時期 ※就職活動終了者／単一回答 ※2020年卒、2017年卒の卒業年次前年「5月」の数値は「5月以前」の数値

(%)

	卒業年次前年														卒業年次				9月までの累計	2月までの累計
	n	3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月以降		
2024年卒	1,525	12.5	8.5	5.6	13.1	5.5	7.8	3.8	4.7	2.8	5.0	5.1	6.3	7.7	3.1	1.7	1.9	4.7	56.9	80.8
2023年卒	1,280	16.7	7.3	5.8	12.6	6.1	6.7	4.5	5.1	2.1	3.8	4.5	5.5	9.7	3.8	1.1	1.5	3.4	59.7	80.7
2020年卒	1,698	–	–	11.3	6.7	3.3	5.4	3.7	5.7	4.5	6.7	8.5	10.0	21.6	6.7	2.4	1.3	2.3	30.3	65.8
2017年卒	1,990	–	–	4.1	2.3	0.8	2.7	0.9	3.1	3.7	8.6	7.2	12.6	38.5	7.0	2.5	2.1	3.9	10.8	46.0

❷ 最初に内定を取得した時期 ※内定取得者／単一回答

(%)

	卒業年次前年								卒業年次							2月までの累計	5月までの累計
	n	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降		
2024年卒	1,584	11.8	1.5	1.8	4.4	4.3	7.7	14.4	13.1	11.4	11.4	4.9	4.5	3.3	5.5	31.4	70.4

❸ 入社予定企業等からの内定取得時期 ※就職先確定者のうち内定取得者／単一回答

(%)

	卒業年次前年								卒業年次							2月までの累計	5月までの累計
	n	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降		
2024年卒	1,530	5.8	0.8	0.4	1.6	1.7	4.9	10.4	12.8	14.3	18.7	8.4	7.1	5.9	7.2	15.2	52.7
2023年卒	1,342	7.3	0.9	0.6	0.6	1.1	3.2	7.7	14.3	13.5	18.3	8.5	9.1	6.0	8.9	13.7	49.2

学生 実質就職活動期間は平均7.87カ月

❹ 実質就職活動期間の平均

※就職活動終了者／数値回答

2024年卒
7.87カ月

2023年卒	8.36カ月
2022年卒	7.55カ月
2021年卒	7.80カ月
2020年卒	6.38カ月

した割合は68.7％で（グラフ❺）、継続した理由は、「より志望度の高い企業の選考を受けるため」が76.1％で最も高く、次いで「内定取得先の企業でいいのか不安に感じたため」が27.0％であった（グラフ❻）。

複数内定取得者のうち、内定を複数保有した時期が「あった」と回答した学生は89.4％で（グラフ❼）、大半が複数の内定を保有して過ごす時期があった。理由は、「同時期に複数の内定をもらったから」が64.2％で最も高く、次いで「より志望度の高い就職先の選考が終わっていない（いなかった）から」が45.2％であった（グラフ❽）。

また、「どれに入社するべきか、自分自身が決断できない（できなかった）から」という学生も18.9％いた。理由として挙がったのは、重視した条件の優先順位に迷いが生じたことや、勤務地等の働き方が不明瞭だったこと、内定取得が第一目的という状態を脱して冷静に考えられるようになったことなどであった。

内定後に進路を再考。納得できる企業に決定

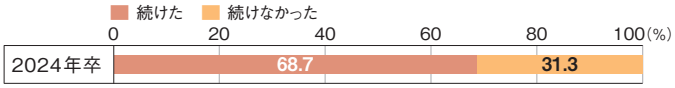
● Sさん・ソーシャルサービス企業内定・文系学部4年

やりたいことが明確ではなかったので、まずは知っている企業の話を聞いてみようと、大学3年夏に合同企業説明会で20社弱、1day仕事体験で10社弱の情報を収集。その後は何をすればいいか分からなかったため活動せず、12月に再開。翌年2月から興味を持ったメーカーへの応募を始めました。ただ、自分の思いや考えが出てこず応募書類を書く手が止まってしまうため、大学4年4月に再度自己分析。自分のちょっとした気遣いで誰かに喜ばれるとうれしく思うことからサービス業の方が合っているのでは？と考え、ホテル業界に志望変更しました。

そうして6月に2社に内定しましたが、働く先として改めて考えると、土日勤務や給与、求められるサービスの質の高さに耐えうる熱量が自分には足りないという考えに至り、別の仕事を探すことに。アルバイトで経験した学童保育事業の方がより熱量を持って働けそうだと判断して4社ほどに応募し、9月に内定を得て入社を決めました。長期間の活動でしたが、心からやりたいと思えることに気づき、納得できる企業を選べたので満足しています。

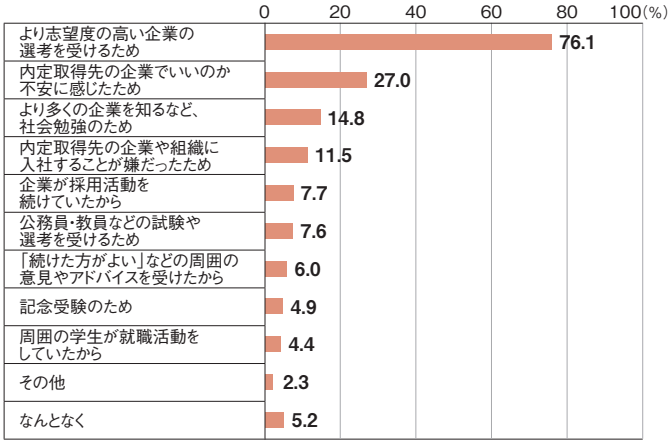
学生 68.7％が、最初の内定取得後も就職活動を継続

❺ 最初の内定取得後の就職活動継続状況 ※内定取得者／単一回答



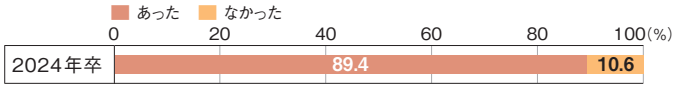
❻ 最初の内定取得後に就職活動を続けた理由

※最初の内定取得後に就職活動を継続した学生／複数回答

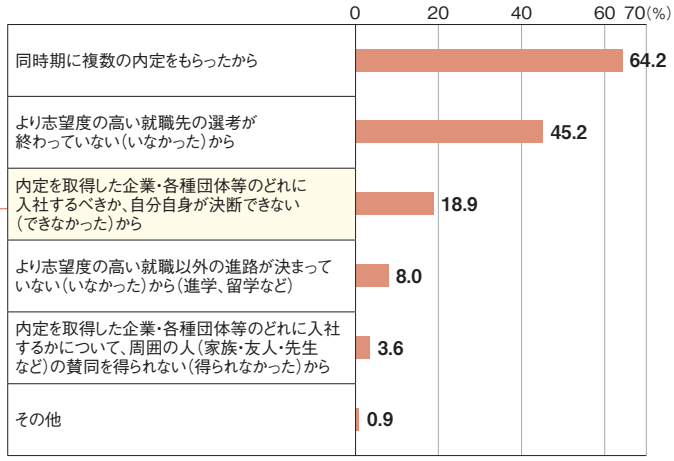


学生 複数内定取得者のうち、内定を複数保有した時期があったのは89.4％

❼ 内定を複数保有した時期の有無 ※複数内定取得者／単一回答



❽ 内定を複数保有した理由 ※複数内定取得者／複数回答



決断できない（できなかった）理由

- 給料や福利厚生など自分が優先したい条件がたくさんあって、総合的にどの企業がいいか自信を持って答えを出せなかったから。
- どちらにもメリットデメリットがあること、また急な内定取り消しなどもないわけではないと思ったので、ぎりぎりまで内定は辞退せず保持していた。
- 勤務地を重視していたが、内定をもらった際に勤務地が明確に分かっていなかったため。
- 給与を取るか安定を取るかで迷っていたから。
- まだ就職活動をやり切れていないと感じたため。もう少しだけ続けて内定先の企業が自分に合っているか確かめようと思った。
- 卒業まで一年近くあるのに職種や業界を決め切ってしまうことに抵抗感があったから。自分が何を大切にしたいか考えきれていなかったから。
- 内定をもらうまでは内定をもらうことがゴールになっていた部分があり、本当にこの企業でいいのか、心の余裕ができて冷静な気持ちになったから。